

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970201232		
法人名	医療法人孝栄会		
事業所名	陽だまり		
所在地	栃木県足利市島田町754番地1		
自己評価作成日	平成24年9月18日	評価結果市町村受理日	平成25年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 栃木県社会福祉士会
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)
訪問調査日	平成24年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひだまりでひなたぼっこをしながら穏やかに日々を過ごしたいと思いつつ、現実には落ち着かなく歩き回る方やイライラして声を荒げる方、職員への訴えを繰り返す方などへの対応に追われる毎日…。「職員さんは大変だねえ〜。」と冷静に見つめる入居者さんを尻目に、ついため息がでることも…。でも、めげてばかりはいられません。家族や医療法人の力を総動員し使えるものはすべて使って、私たちの持てる力をここぞとばかりに発揮するべく、毎日話し合い、あの手この手のあらゆる手段？を使い、イライラをニコニコへ、しかめっ面を笑顔に、鬼の形相をえびす顔にするべく奮闘しています。今のところ勝率は低いのですが、負けるもよし。なんとって、同じ家に住む家族ですから、丸ごと受け入れ、あとは開き直って何とかするさで、お祭り行って、水族館行って、ウ〜ツマンボウ！な気分です日々過ごしています。

隣近所の付き合いができるような自然な形で地域との結びつきが確立している。特に災害対策では他の地域の消防訓練に参加をしたり、ホームで行う場合には近隣の方が参加できるように日程を調整しながら地域住民が参加をしている。建物も外に出やすいよう配慮されていたり、室内も移動しやすいよう家具やテーブルのレイアウトを工夫している。また、あえて目の届かない場所にソファを置き、一人でくつろげる空間も作っている。利用者個人の記録ファイルには左側にケアプランを提示しており、左側に記録が書けるようになっていて。その為、日々のケアの中で職員全体がケアプランを確認でき、その計画に沿った支援ができるよう連動するシステムを確立している。細かい部分にも配慮がされたバランス感の良い事業所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で「その人らしく」「いきいきと」生活して頂くという目標を職員全員で共有し、入居者と向き合い、話しあい、共に行動しながら、入居者本位の生活支援の実践に取り組んでいる。	設立時に職員間でホーム独自の理念を作りスタッフルームに掲げている。日常的に外に出ながら隣近所のような関わり方をしている。「まず本人に聞く」という実践の中で理念を形にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の行事や高齢者のサロンへ積極的に参加し、当事業所で行う消防訓練や交流会に地域の人々を呼び、入居者が地域の方と交流する機会を増やすと共に、地域との交流が深まるよう努めている。	近隣の方から農作物のお裾分けもあり、散歩中の立ち話など隣近所の関係が築けるように心がけている。ホームをお神輿の休憩場所として提供したり地域行事への還元も行っている。地域の方対象とした認知症研修会を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は地域の人々に認知症についての支援ができるよう日々勉強し、法人全体の取り組みとして、地域の人々に認知症に関する講演会や相談会を実施する準備をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域の人々や法人内の各部署から参加し、そこでの意見を法人全体で取り上げ、入居者や地域の方々へのサービス向上になることを検討し実施に向けて取り組んでいる。	参加者は市担当者、自治会長、利用者、家族などが基本となっているが、内容により民生委員など参加者を広げて地域のタイムリーな課題も話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者には運営推進会議を通して実情を伝え、サービスについての相談も随時行っている。	市担当者との直接的に電話連絡をしたり生活保護などの担当者との関わりもある。ホームとして協力できる事を提案しながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について学んでおり、安全に配慮しながら見守りによる身体拘束をしないケアを実践し、日中玄関は施錠せず敷地内を自由に出入りできるが、門のみ安全のため施錠している。	勉強会を兼ねた月1回のミーティングの他、外部研修にも積極的に参加をして職員全員に伝達している。毎月、法人全体でのチェックや自己チェックを実施しながら職員全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待について学んでおり、入居者の尊厳を守るよう努め、法人全体で「虐待早期発見チェックシート」と「職員行動基準自己評価リスト」を使用して虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	職員は権利擁護について学んでおり、入居者の状態に応じて必要性を検討し、家族へも情報を提供し活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約解除の際は十分な説明を行い、疑問を残さないように努め、料金等の改定の時も文書等により説明し、理解し納得して頂ける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者との日頃の関わりの中で、率直な気持ちを外に表せるように支援し、家族にも訪問時や電話の際などに積極的に話しかけ、気軽に意見を言ってもらえるように努めている。	利用者本人に聞きながら献立を一緒に考えたり行きたい場所を決めたりしている。また、利用者の意見を採用して猫を飼うようになった。リハビリをしたいという意見の方には受診ができるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員の意見を聞く機会を設けており、管理者は毎月のミーティングで出た意見を取り上げ職員間で議論し運営に反映させており、日常的にも意見を言える雰囲気がある。	職員間でケアノートを作成しながら日々の中での職員の気付きを実践しながら結果を検証している。月1回のミーティングでは担当者を決めて職員の意見を集めながら効率的に行われる工夫もしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の勤務状況を把握し処遇に反映させ、資格取得のための研修にも積極的に参加を促し、規定以上の職員を配置し職員が働きやすい職場環境を整備している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員のレベルアップのために外部の研修を受けることを奨励し、法人内でも段階に応じた職員研修を受けることができ、職場内でも定期的に勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者や職員は、市内の同業者と定期的に関係する機会を設け、同業者の意見を聞くことで悩みや疑問の解消やサービス向上の参考にしたり、緊急時の連携について話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人に会って話をし、不安や困っていることや要望を聴いたり、事前にホームを見学して雰囲気を感じてもらい、少しでも不安が解消されるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の入居に至るまでの気持ちを受け止め、本人の気持ちと違った場合でも、より良い方向に行くように何でも話し合える関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の必要としている支援のために、まず何が必要かを考え、入居にこだわらず他のサービスの利用も含めて検討し、状況に応じて柔軟に対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護者としてだけではなく、同じ時間を共有するものとして喜怒哀楽を分かち合い、思いを汲みとりその人らしさとは何かを常に考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、共に本人を支える協力者として接し、本人の希望をかなえるための協力をお願いし、将来について話し合いながら信頼関係が深まるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方とは継続して付き合えるよう訪問しあうことを支援し、馴染みの場所には入居後も出かけている。	家族の協力を得たり難しい場合には職員が付き添いながら行き付けの理美容院へ通っている。外出や訪問も自由に行われており、関係が途切れないようにしている。	利用者や家族の高齢化により関係性が薄れてしまう可能性もある為、将来的な対応についても検討されることを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を考慮し、大きなトラブルにならないように見守りながら、入居者同士が関わり合い、協力し合い、反発しあいながらもお互いを意識して生活していけるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要な方には状況を伺いながら、現在の暮らしに必要な情報を提供したり、必要な援助が受けられるように働きかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを知るために、話し合い、言葉では表せない場合は、行動や暮らしぶりから汲みとったり、困難な場合でも何が本人にとって最良か話し合っている。	「まず本人に聞く」ことを基本にしながらケアをしており、その反応を職員全員で確認しながら方法も考えている。家族にも相談をしながら様々な立場や視点を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からこれまでの暮らしぶりや生活環境などの把握に努め、本人や関係者から聞いた情報を記録にして共有し、入居後の生活に活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの身体能力や持てる力を最大限発揮できるように、現状を把握し共有し、生活のあらゆる場面でその機会が得られるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向をもとに、現状の課題や楽しく暮らすために必要なことを話し合い、医師や看護師などの意見もふまえ、介護計画を作成している。	個別記録の見開きは左側にケアプランが貼られており右側が記録部分となっている。プランに連動した工夫が行われ日々の中での確認もできるようになっている。3ヶ月を基本にモニタリングが行われ見直し時期も職員間で決めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの中でのちょっとした変化や気付いたこと、ケアの実践の結果を個別記録に記入し、職員間で共有してケアの工夫につなげたり、介護計画の見直しの際に参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の医師や看護師と連携し、体調の変化に対応して暮らしの継続をはかり、法人内他部署の職員の協力を得て様々な外出支援を行うなど、本人や家族のニーズに答える努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中に、入居者を理解していつでも安心して利用できるお店や、行き来できるお宅を少しずつ増やしていき、生活が豊かになるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人や家族の希望に沿って行い、希望がない場合はかかりつけ医に受診することを了解してもらっており、それ以外でも適切な医療を受けられるように支援している。	往診も毎週行っており24時間医師に相談できる体制が整えられている。家族が付き添えない場合には職員が付き添いをしている。家族への情報提供をしながら関係者が情報を共有できる仕組みとなっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師が週に一度訪問した際には、日常生活の中での変化や気づきを報告したり、疑問に思うことを相談して、その後の対応を検討したり適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合は、本人のダメージができるだけ少なくなるように十分な情報提供を行い、早期退院に向けて医療機関と話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したり看取りが必要になった場合については、事前に家族に指針を説明し納得して共有しているが、状況に応じて医師を交えて話し合うことにしている。	看取りの指針を作成しており毎月職員間で受入れが継続出来るか現状に合わせた話し合いが行われている。移行時期も医師と相談をしながら家族と繰り返し話し合いをして納得してもらえるような体制が整えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場内の応急手当普及員によるAEDの操作を含めた実践的な訓練や、法人内の看護職員による勉強会などを定期的に行い、いざという時に迅速に行動できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣住民や家族や法人内職員が参加し、あらゆる災害を想定した消防訓練を年2回行い、運営推進会議で災害時の協力体制について話し合い、災害時の備蓄や家具の転倒防止やガラスの飛散防止も行っている。	マニュアルは昼用と夜間用を作成して出勤時には必ず目を通すようにしている。地域の方が参加しやすい日程で実施をしているほか、地域の消防訓練にも参加をしてお互いに協力できる体制となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を持ちつつ親しみのある言葉掛けを心がけ、個人情報の取り扱いマニュアルに沿って慎重に行い、日々のやり取りや支援の際には、プライバシーへの配慮に気を配っている。	利用者本人がどのように感じているのかを基本とし、職員がどのように見られているのかという利用者からの視点も職員間で話し合われている。また、一人ひとりに合わせた心地よさも考える機会を作っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事においても本人の意思を大切にし、その人のわかる力に合わせて説明して意思を表わせるように努め、難しい場合でもどこかに本人らしさが出るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れを時間で決めず、一人ひとりのペースに合わせて行い、希望に沿って柔軟に変えながら、持てる力をどこかで発揮し一日を楽しく過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室に行き、希望があれば職員が毛染めを手伝い、好みの服やアクセサリなどを身に付けておしゃれを楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作り、買い物、調理、後片付けの食事に関する一連の作業の中で、何がしかのことに参加してもらい、職員も一緒に食べ共に食事を楽しんでいる。	献立は新聞のチラシを利用者と職員と一緒に見ながら決め、法人に所属している管理栄養士のチェックを受けている。季節の旬の物を取り入れたり、おやつ作り、プランターでの家庭菜園、日々の調理にも参加をしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士の助言や勉強会を参考に栄養バランスのとれた食事を工夫し、一人ひとりの咀嚼や嚥下や栄養状態に合わせた形態や量を提供し、食事や水分量をチェック表に記録し確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きと入れ歯の手入れを一人ひとりの力に合わせて支援し、夜間は入れ歯の消毒を行い清潔保持に努め、異常があれば早めに歯科受診及び訪問歯科を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ誘導の間隔や介助の度合いは、一人一人に合わせて行い、気持ちよくトイレで排泄できるように支援している。	ケアノートを活用しながら毎日のように変化をする状態にも対応出来る体制となっている。ケアの方法も職員間で話し合わせ、排泄の自立支援を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食事や乳製品をメニューに取り入れ、水分摂取量にも注意し、適度な運動や腹部マッサージを行っているが、それでも便秘気味な方には、医師と相談して服薬支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入る方には希望の時間に、入浴が嫌いな方には誘い方を工夫し、清潔保持のために最低限3日に一度は入って頂けるように支援し、入浴中は話をしながらゆっくり入れるようにしている。	夕方を基本としており順番も希望を聞きながら決めている。体調に合わせて職員が2人で対応したり付き添う職員を代えたりしながら心地よく入浴できる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は一人一人に合わせており、眠れない方や疲れている方には、飲み物や落ち着ける場所を提供し、話し相手をしながら安心できる環境づくりを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の情報を共有し、袋の工夫や服薬時は二重のチェックをし、薬の調節時は状態の変化を細かくチェックし医師に報告して、体調維持に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の家事は何がしかの役割を分担して行い、嗜好品を楽しめるようにし、イライラしている方の気分転換や楽しみの時間を作ることを積極的に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日交代で買い物に行き、散歩や近所への外出や地域の行事への参加を日常的に行い、希望の場所にはできるだけ行けるようにするために、職員だけでは難しい時は家族の協力を仰いでいる。	「木曜日は散歩の日」と決めながら天候に合わせて外出できるようにしている。法人の協力を得ながら運転手付きで外出できる機会を増やす工夫もなされている。花見等は外で食事をしたり季節を楽しめるような企画も取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は好きなものを買ったり、ひ孫が来た時に小遣をあげたり、電話を掛けるのに使い、自己管理が難しい方にも自由に使えることを話し、外出時には持参して好きなものを買って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由にやり取りして頂いているが、一人では困難な方には、希望の相手とやり取りができるよう間を取り持っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は天井も高く外の景色が見え、自然な光や風が入り開放的であり、不快な音もなく落ち着いた雰囲気になっており、生活感や季節を感じられる展示を工夫し、居心地良く生活出来るように配慮している。	ソファをあえて見えにくい場所に置いて一人でくつろげるような工夫もしている。動きやすいように物を最小限に置くようにしている。フローアは床暖房となっており足元の寒さの対策も整えられている。猫を飼う事で場の雰囲気がより和むようになった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中にソファやベンチ、堀ゴタツがあり、気の合ったもの同士で過ごせたり、一人になれたり、と思ひ思いに過ごせる居場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族が自由にものを置けるようにしており、馴染みの物や大切にしているものを身近に置いて、居心地良く暮らせるようにしながら安全面を工夫している。	ベッドと洗面台が備え付けられており、家族が部屋のレイアウトを利用者と一緒に決めている。職員も飾り付けを利用者と話し合いながら個性が出るような工夫も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見やすい場所に時計やカレンダーを飾り、居室入口に目印をつけ、車椅子の方でも手入れできる所にプランターを置き、台所は誰でも自由に入れるよう配慮し、混乱なく自立した生活が送れるように支援している。		